

日本ユネスコ協会連盟における“ESD for SDGs”の取組 ～「子どもや学校」の活躍・充実を願って～



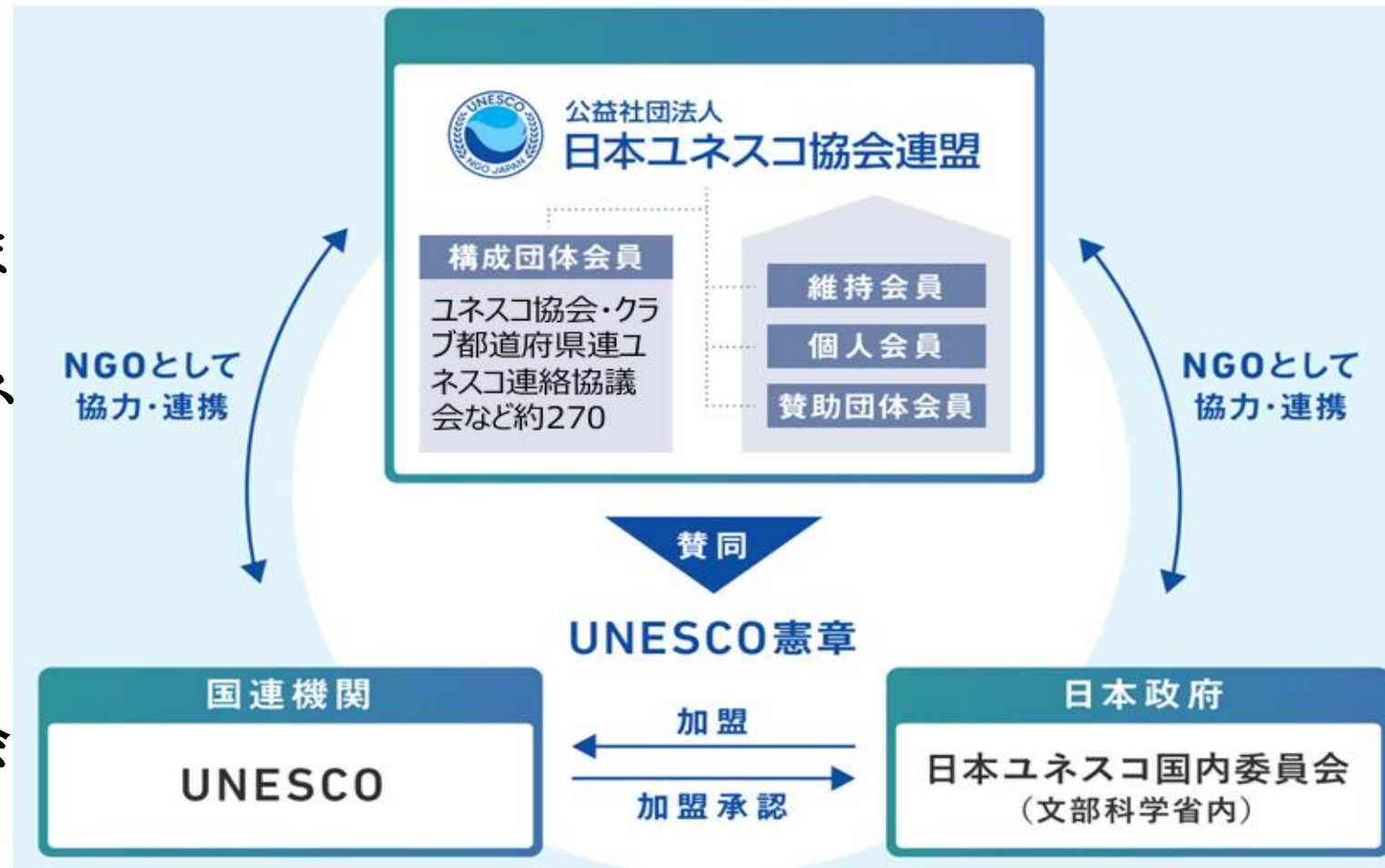
公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

安田 昌則(日本ユネスコ協会連盟 理事)

＜写真出典＞
日本ユネスコ協会連盟HP

日本ユネスコ協会連盟の紹介

- 民間のユネスコ団体(NGO)として1948年に創設(創立75年)
- ユネスコ憲章の理念に基づき、教育や文化の普及・振興を通じたさまざまな活動を国内外で実施
- UNESCO(国連機関)や日本ユネスコ国内委員会(文部科学省)と連携・協力
- ユネスコ協会・クラブは、全国に約270
- ユネスコ協会・クラブに所属する会員は、約14,500人



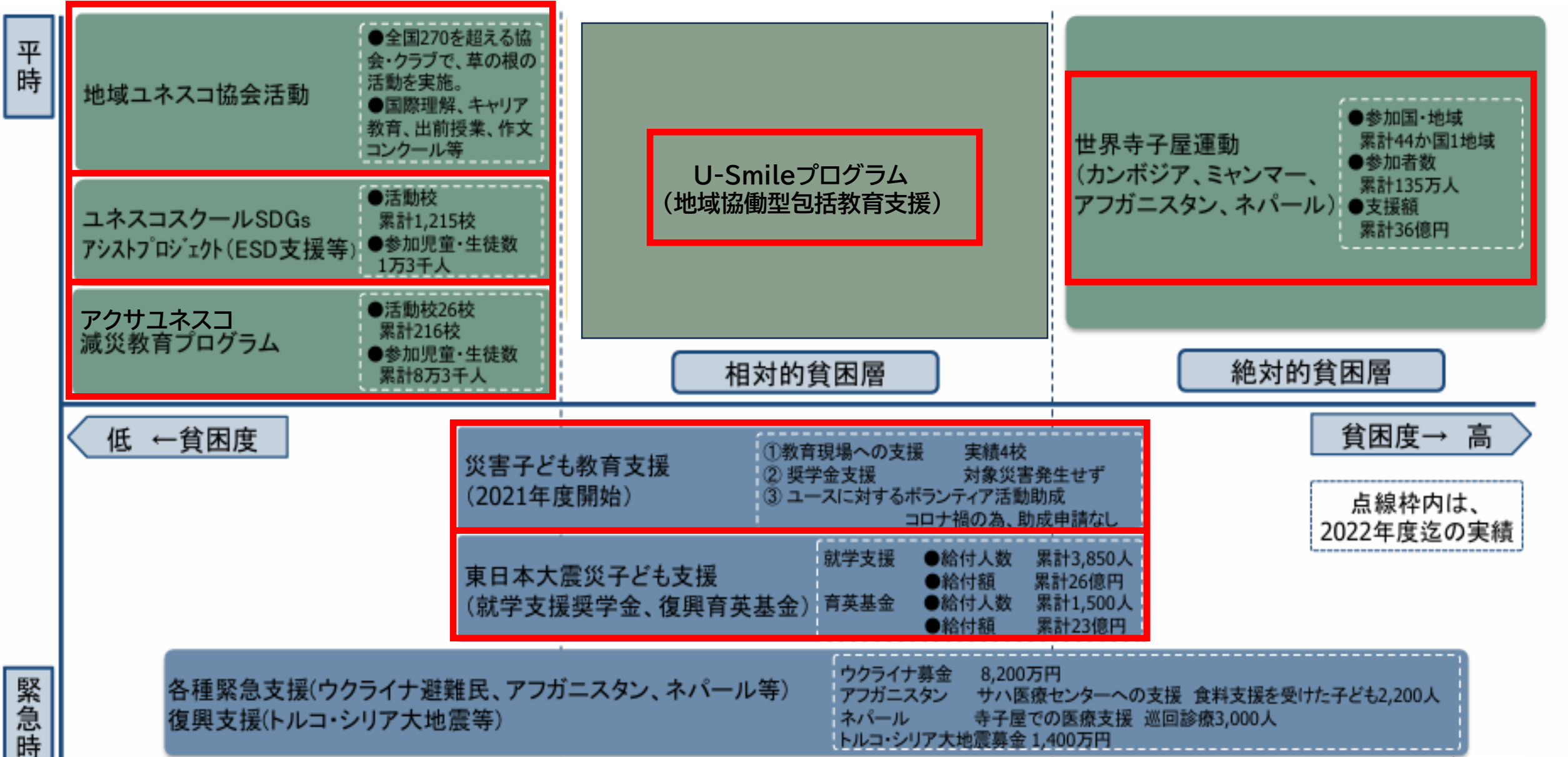
出典:日本ユネスコ協会連盟HPより

※昭和二十七年 法律第二百七号
ユネスコ活動に関する法律(抜粋)

第4条

国又は地方公共団体は、第一条の目標を達成するため、自らユネスコ活動を行うとともに、必要があると認めるときは、民間のユネスコ活動に対し助言を与え、及びこれに協力するものとする。

日本ユネスコ協会連盟の教育支援活動の全体像



<出典:日本ユネスコ協会連盟U-Smileプレゼンより>

日本ユネスコ協会連盟の「子ども・学校」への支援等の紹介

1. アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

3. 東日本大震災
子ども支援

2. ユネスコスクールSDGs
アシストプロジェクト

4. 災害子ども
教育支援

子ども
持続可能な創り手を育む
ESD for SDGs
学 校



5. U-Smileプログラム

6. 世界寺子屋運動

※SDGs達成に向けた
次世代育成



1. アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

次のプログラムを通して、学校の減災教育を支援・促進します。

①助成校に活動 助成金(10万円)

②教員研修会(減災教育の理論・被災地での研修・被災地学校訪問等)

○9月、教員研修会(仙台市、気仙沼市) *9月～1月各学校で実践

③活動報告会・減災教育フォーラム(公開)

○1月 or 2月(各校の減災教育の取組を報告)

※毎年、全国約30校の助成校が参加 <本年度で11回目の実施>

※2023年度から学校とユネスコ協会協働枠を設ける

本プログラム参加者(累計)2014～2023年度

助成校:246校 参加教員数:326名

参加した児童・生徒、地域住民数:92,584名

【協力】 アクサ生命保険株式会社/奈良教育大学ESD・SDGsセンター

【プログラムコーディネーター/講師】 及川 幸彦氏(奈良教育大学)

【後援】 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会



令和6年度
気仙沼市東日本大震災遺構・
伝承館 視察

<写真出典:日本ユネスコ協会連盟
アクサユネスコ協会減災教育プロ
グラム報告より>

2. ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト

SDGs達成に向けてESDを実践するユネスコスクール及びキャンディデート校を対象に、活動費用の助成を行います。

○助成校：毎年約70～80校程度

①10万円枠(1年間の活動)約70～75校

②30万円枠(2年間の活動)約3～5校

○12月に活動発表会の開催(オンライン) ※参加希望による

○本年度で 第15期の実施(これまで1,293校に助成)
(累計参加児童・生徒数:約1万3千人)

○次年度:第16期応募校審査中

【協力】株式会社 三菱UFJ銀行
【後援】日本ユネスコ国内委員会



<写真出典:
日本ユネスコ協会連盟HP>

3. 東日本大震災子ども支援

実績(累計)2025年2月5日時点

○奨学金支援(返還不要型)2011～2025年までの長期支援

1. 震災で親を亡くした子どもへ

「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」

1486人、奨学金給付額:約23億円

小学校から高校卒業までの在学期間に月額2万円を給付

2. 震災で経済状況が悪化した家庭への子どもへ

「ユネスコ協会就学支援奨学金」

3977人、奨学金給付額:約27億円

中学3年次から高校2年次までの3年間、月額2万円給付

○学校支援 2011年完了:短期支援

被災校などへの緊急物資支援

144校、2教育委員会、支援額:約2億円

○文化・コミュニティ・心のケア支援など(2011～2018年完了:短期～中期支援)

5463人への
奨学金支援

- 震災で親を亡くした子どもへ
- 震災で経済状況が悪化した家庭の子どもへ

奨学金給付総額
約50億円

144校と
2教育委員会
への学校支援

支援継続年数

15年

(2025年度終了予定)



<写真出典:日本ユネスコ協会連盟HPより>

4. 災害子ども教育支援

自然災害で被災した学校等の教育現場の復旧・復興や、子どもの就学継続等、学習環境の整備・復興を目的に、発災時に被災レベルに応じて3つの支援を行う。

①学校等への支援 ②奨学金支援 ③ユースボランティアへの活動助成

【令和6年 能登半島地震被災地支援】 募金総額:約5,600万円 2024年12月24日現在

1. 学校等への支援 支援金:約2,700万円

被害レベル4(最大)の学校29校へ (例:電子黒板、保健室用具、理科教材など)

2. 奨学金支援 奨学金支援:約2,700万円

保護者を亡くした子ども、経済的支援が必要な子ども 37名(中1～中3)月額2万円
(石川県内の2市2町:珠洲市、能登町、輪島市、穴水町)

3. ユース・ボランティア支援 2団体へ支援金:約13万円

被災地の家財道具の搬出、搬出家具・がれきの整理など輪島市で実施



大雨の中瓦礫を搬出

<写真出典:日本ユネスコ協会連盟
災害子ども教育支援事業報告より>

5. U-Smile プログラム

(みんなでつなぐ子ども応援プログラム／地域協働型包括教育支援)

相対的貧困やさまざまな理由で、困難な状況に置かれた日本の子どもたちを対象に実施しています。本事業では、生活習慣、学習習慣の形成、自己肯定感の醸成など、子どもたちの自尊・自律を促す**包括的な支援を推進**します。**地域の**ユネスコ協会・クラブ、自治体、教育機関、企業の**協働**を促し、この取り組みを広げていくことで、子どもたちが夢や希望をもてる社会の実現を目指します。

困難な状況に置かれた子どもたち

アクション

U-Smile ～みんなでつなぐ子ども応援プログラム

ミッション

- 困難な状況に置かれた子どもたちの成長を育む
- 基本的な生活習慣や学習習慣を身につけ、人や社会と関わる力や自立して生き抜く力を養う

ビジョン

子どもたちが夢や希望を持てる社会へ



6. 世界寺子屋運動

世界寺子屋運動は、基本的人権として誰もが教育の機会を得て、貧困のサイクルを断ち切り自ら考えて行動を起こしていけるように、1989年から活動を行っています。(アジアを中心に)

※これまでに540軒の寺子屋を建て、135万人が学びました。参加国・地域累計44ヶ国・1地域

※書き損じ葉書等の回収 ➡ 累計36億円支援
※寄付等

<関連事業>



高校生カンボジア
スタディツアー
(日本の高校生を
対象に)



寺子屋リーフレット
制作プロジェクト
(日本の小・中・高校生
を対象に)

<出典:日本ユネスコ協会連盟HPより>

世界寺子屋運動の多様な役割



※SDGs達成に向けた次世代育成

○三菱アジア子ども絵日記フェスタ(6歳から12歳対象／国際理解・ESD)

「伝えたいな、私の生活」をテーマに、日本をはじめとする、アジア24カ国・地域の子どもたちから、絵日記を募集します。共催:三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟

○みどりの絵コンクール(幼児・小学生対象／自然・環境)

次代を担う児童に自然に親しみ、自然の美しさ、自然の大切さを学んでもらおうとの趣旨で実施しています。4歳児以上が対象の「みどりの絵」部門、小学生が対象の「わたしが守りたい身近な自然」部門

共催:公益財団法人三菱UFJ環境財団

後援:環境省、毎日新聞社

協賛:株式会社三菱UFJ銀行

○ユネスコ協会SDGs活動助成

平和な世界構築、SDGsの達成に向け、市民に開かれた、青少年を主な対象に地域の社会課題を解決する視点で、ユネスコ協会・クラブの活動を支援しています。



<出典:国連広報センター>

日本ユネスコ協会連盟の取り組みの強みと課題(子ども・学校への支援等)

<取り組みの強み>

- ☆全国のユネスコ協会・クラブの草の根の活動展開：行政・各団体等との連携
- ☆日本ユネスコ協会連盟と多様なステークホルダー(国・地方自治体・教育委員会・銀行・企業・諸団体等)との連携
- ☆多くの方の寄付・寄贈による事業展開



※長期にわたる多くの子ども・学校への支援等

<課題>

- ユネスコ協会連盟と連携するステークホルダーの拡大
- ユネスコ協会のユースの人材育成とユースの拡大
- ユネスコ協会とユネスコスクール・学校との連携強化（啓発・広報の強化）

多様なステークホルダーとの連携による事業展開

